

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立科学技術学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭（総務部）、経営企画室長、総務部員1名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主任教諭(教務部)、主幹教諭（進路部）、主任教諭（保健部）、主幹教諭(生徒部)、主任教諭(総務部)、主幹教諭(研究部) 計9名
- (4) 協議委員の構成
拓殖大学教授、本校後援会2名、江東区青少年委員会会長、江東区立中学校長2名、江東区教育委員会統括指導主事、江東区大島一丁目会長、子どもの成長と環境を考える会代表 計9名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年6月24日（金）内部委員9名、協議委員6名
学校長挨拶、委嘱状交付、自己紹介、役員紹介、本校の現状と課題等説明、意見交換、事務連絡
 - 第2回 令和4年11月11日（金）内部委員9名、協議委員8名
学校長挨拶、これまでの教育活動に関する説明、各分掌・学年等の取り組みと成果についての中間報告・意見交換、学校評価アンケートについて内容検討・協議、事務連絡
 - 第3回 令和5年2月17日（金）内部委員9名、協議委員5名
学校長挨拶、これまでの教育活動に関する報告、各分掌・学年等の取り組みと成果についての報告と意見交換、授業アンケート・学校評価アンケートについての報告と意見交換、事務連絡
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年6月24日（金）内部委員2名、評価委員1名
昨年度の学校評価アンケートの概要説明、今年度の学校評価のスケジュール確認
 - 第2回 令和4年11月11日（金）内部委員2名、評価委員1名
今年度の学校評価アンケート案の検討
 - 第3回 令和5年2月17日（金）内部委員2名、評価委員2名
今年度の学校評価アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・ 12月 全校生徒 対象：610人 回収：593人 回収率：96.8%
 - ・ 1月 保護者全員 対象：610人 回収：264人 回収率：43.3%
 - ・ 1月 地域・住民 対象：29人 回収：25人 回収率：86.2%
 - ・ 12月 教職員 対象：62人 回収：60人 回収率：96.8%
- (3) 主な評価項目
教育目標、学校生活の充実、電話対応、授業のわかりやすさ、理解度に応じた授業の工夫、科学技術に関する授業、生活指導の周知、生活指導の理解、進路指導の連携、進路指導の方法、学校行事、生徒の個性、健康安全指導、防災活動、清掃状況、施設・設備の修理、SSH事業、本校でつけられる資質・能力、学校生活の満足度、ライフ・ワーク・バランス、特色ある学校づくり、地域との連携、開かれた学校づくり、について等。
- (4) 評価結果の概要
 - ・ 学校評価アンケートの回収率は、生徒は、ほとんど変化なく、教職員・地域の方は微増したが、保護者の回収率は減少した。今年度は保護者向けに全学年、スタディーサプリで「アンケートのお知らせ」を配信したが、回答率の改善までには至らなかった。来年度以降、通知方法を含め対策を考える。
 - ・ 保護者向けアンケートについて、今年度、保護者からの要望で「判断できない」の回答を追加した。その結果、「判断できない」の割合が多い質問項目では、「肯定的な回答」の割合が減っている傾向がある。これは、昨年の地域の方向けアンケートでも同じ傾向がみられた。
 - ・ 授業や生徒指導、進路指導に関する質問項目については、地域の方からは「判断できない」の回答割

合が高かった。ホームページの更新回数を更に増加させる等、本校の教育内容を積極的に伝える。

(5) 評価結果の分析・考察

- ・教育目標の周知に関しては、教職員・保護者と、生徒との間に評価の開きがあった。本校の教育目標をわかりやすく生徒に伝え、一層周知させる必要がある。
- ・学校生活の充実感については、今年度、例年に比べ生徒の肯定割合が約25%程度下がったが、満足度に変化はなかった。さらに生徒とのコミュニケーションを密にし、意見の分析に努めながら改善点を模索していく。
- ・授業のわかりやすさについては、教職員全員が教材や教え方に工夫をしていると回答したが、保護者の肯定的評価は63%とやや開きがある。さらなる教材研究や授業方法の改善に努める。
- ・科学技術に関する授業については、保護者・生徒の8割以上が学校の取り組みを肯定的に評価しており、本校の特色ある教育活動について高評価を得ている。
- ・生活指導の方針やきまりは、生徒の85%が理解している。今後は、その目的や取り組みについて、生徒の理解を深めさせる。
- ・進路指導については、生徒の適性や希望を生かした適切な進路指導が行われていると感じている保護者は74%であるが、保護者との連携が密であると感じているのは66%であった。保護者に対する情報提供の機会を増やし、連絡を一層密にする等の取り組みが求められる。
- ・学校行事に対する生徒の肯定的評価が、昨年度と比較すると増えて81%、であった。コロナ禍の制限がある中でも、文化祭や体育祭などの各種行事が実施できたことが要因の一つとして考えられる。今後も、学校行事の分析や生徒の意識調査を行い、行事内容の改善や目的の周知に努める。
- ・SSH事業については、保護者の79%、生徒の72%が本校独自の教育プログラムを肯定的に評価している。本校の根幹となるべき取り組みでもあり、一層の充実を図っていく努力を継続していく。
- ・開かれた学校づくりや地域との連携について、地域の方々からの肯定的な意見は昨年度比で増えており64%であった。要因の一つとしてコロナ禍で実施できなかった学校開放事業が再開したことが考えられる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・協議委員との意見交換を通して、本校に対する理解を深めていただくと同時に、客観的な提言をもとに、具体的な取り組みを模索する事ができた。
- ・教職員が、連絡協議会での議論を礎にして、学校をより良くしていこうという意識を一層高める事ができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・大学入試が多様化していく中で、総合型選抜や学校推薦型選抜に対しての指導の徹底と、基礎学力の定着に向けた組織的な取り組みを今後も行っていく。
- ・学校評価アンケート（保護者向け）に関しては、回答の選択肢増加後の経年変化を把握・分析する必要があるため、来年度も今年度のアンケート選択肢を継続していく。また、回答率に関しては、FormsやGoogleフォームなどのweb回答やアンケート通知を複数回実施するなどの改善方法を模索する。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・先進的・実践的な科学技術教育を推進する学校として、幅広い科学的知識や技能を培い、大学進学に向けた普通教科指導に加え、実験・実習や大学・研究機関と連携した体験学習を豊富に取り入れ、校内外での研究活動・研究発表を充実させることで、将来の科学技術者・研究者として活躍できる生徒を育成する。

(2) 学習指導

- ・学校設定教科・科目の内容を充実させ、数学・理科・英語に習熟度別授業等を多く取り入れ、理系に特化した教育課程を編成する。さらに課題研究等の探求活動を中心に据え、様々な教科で探求活動を取り入れる。
- ・令和4年度、平日45分7時間授業、土曜日は講習等で有効利用する。また、3年次に多彩な選択科目を設け、共通テストに対応できる学力を高める。さらに、入学時より「SS特別進学クラス」を設け、国立大、難関私立大学への多様な選抜方法に挑戦する生徒の育成を行う。
- ・充実した施設・設備を基に、実験・実習やフィールドワーク等の体験的な学びを通して科学技術への

興味・関心を伸ばし、問題解決能力を高め、生徒の主体性を伸ばす校内外の研究活動・研究発表の内容充実を図る。

(3) 特別活動

- ・自然科学部門での発表、海外校との共同研究発表等の活動を通して発信力を育成する。
- ・台湾・姉妹校交流や海外研究者講演、英語による研究発表等を実施し、多様な文化を尊重できる胎動を育み、国際的に活躍できる科学者の育成に努める。

(4) 生活指導

- ・挨拶の響く明るい学校を推進し、遅刻指導やセーフティー教室の実施等により、規範意識や望ましい倫理観を育成する。

(5) 進路指導

- ・外部研究施設見学や大学研究室訪問、講演会を通して自己の在り方生き方について学び、将来の進路について考える機会を充実させる。また、外部模擬試験の活用、個別指導の充実、学習支援クラウドの活用を推進する。

(6) 健康・安全

- ・継続した生徒の健康管理を行う。また、健康診断の効率的な運営に努める。
- ・校内美化の徹底を継続する。具体的には、階段、手すりなどコロナウイルス対応による消毒。
- ・熱中症予防講習会等の校内研修会を実施する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	2	0	0	0	0	2

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

今年度は協議委員の参加実績がなかった。